



給食の授業

二十九万人の児童・生徒（対象児童・生徒のほぼ百パーセント）が、学校給食を楽しんでいる。
 特に、学校給食は、教育的意義から、昭和四十四年以降改訂された学習指導要領の総則第三「体育」に関連づけ、学級指導の内容として領域的位置づけがなされ、「給食時には、食事についての適切な指導を行い、望ましい食習慣の形成、好ましい人間関係の育成など、心身の発達に資すること」とされている。
 学校にあつては、学校給食の体質を見極め、教育全体計画の位置づけを明確にして、強力な実践活動を推進しなければならない。

